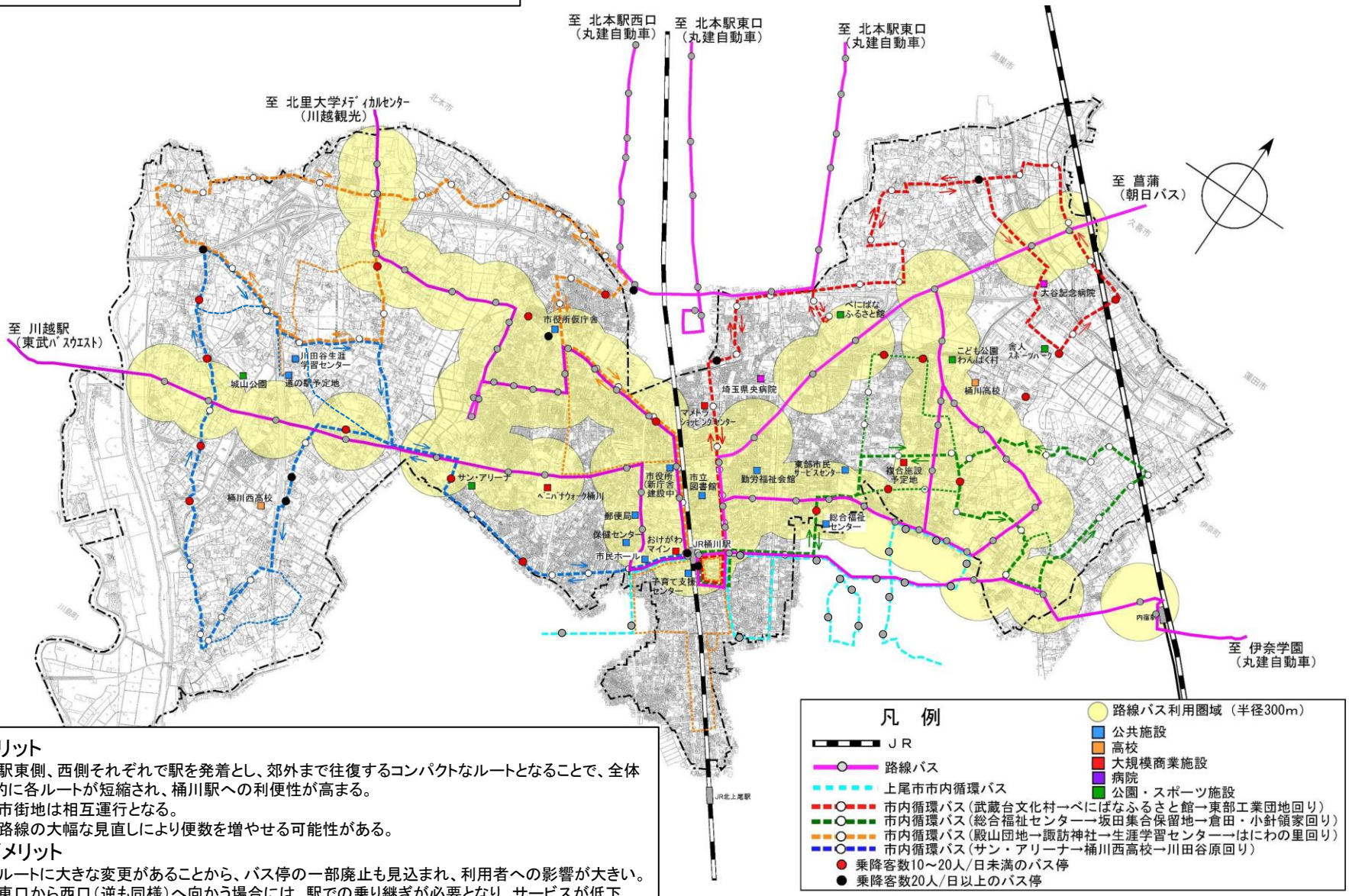
資料3－2

ルート案2
市街地は同一経路を往復し、郊外は循環させ、駅までの速達性を高める案



メリット
○駅東側、西側それぞれで駅を発着とし、郊外まで往復するコンパクトなルートとなることで、全体的に各ルートが短縮され、桶川駅への利便性が高まる。
○市街地は相互運行となる。
○路線の大幅な見直しにより便数を増やせる可能性がある。

デメリット
○ルートに大きな変更があることから、バス停の一部廃止も見込まれ、利用者への影響が大きい。
○東口から西口（逆も同様）へ向かう場合には、駅での乗り継ぎが必要となり、サービスが低下する。
○路線の大幅な見直しにより便数が減ってしまう箇所がある。
○利便性向上により、駅東側の南部を走る路線バス事業者の路線と大幅に競合してしまう。